2026年11月20日　No.1503

A weekly letter

A DAY



株式会社　上坂経営センター
TEL　0776-36-8180
FAX　0776-36-8245
URL　https://www.uesaka.ne.jp
Mail　uesaka-t@mitene.or.jp

論説主幹　公認会計士　上坂朋宏

■経済的な目的から人間的な目的へ

最近、企業経営において、少しずつではありますが、大きな変化が起きているように感じています。それは、企業が何によって利益を上げているのかということだけでなく、**何のために利益を上げているのかが問われるようになってきた**ことです。

利益を上げることは、企業が存続するための大切な条件です。しかし、その利益を生み出す過程で、誰かが犠牲になっていないのか。また　社員や取引先、地域社会、あるいは地球環境に、どのような影響を与えているのでしょうか。

こうしたことに、特に若い世代を中心として、敏感になってきているように感じています。つまり、**企業には経済的な成果だけでなく、社会の中で存在する意味**が求められる時代になってきたということです。

■アンソロピック上場の意義

先日、AI開発企業のアンソロピックが株式上場を申請したというニュースがありました。その目論見書には、驚くべきことが書かれています。自分たちが開発しているAIが、将来、人類の存続そのものを脅かす危険性を持っているというのです。**これから株式を上場し、多くの投資家から資金を集めようとする企業が、自社の技術には人類を破滅させる可能性さえあると警告している**のです。

普通に考えると、何とも奇妙なことですよね。

しかし、私は、そこにアンソロピックという企業の存在意義があるように思いました。AIには、人類の未来を豊かにする可能性があります。しかし、その一方で、人間が制御できなくなる危険性もあります。だからこそ、**自分たちは安全性を重視したAIを開発しなければならない。そして、そのような企業こそが生き残り、成長していかなければならない。**

そうした強い使命感が書かれていました。

もちろん、理念を掲げることと、それを実現することは別です。上場後には株主から利益や成長を求められます。その圧力の中で、どこまで安全性を優先できるのか。むしろ、これからが真価を問われるのでしょう。

ただ、私が興味を持ったのは、アンソロピックが単にAIの技術や将来の市場規模を説明するだけではなく、**自分たちは何のために存在するのかを語っていること**です。これは、企業のミッションや経営理念を考えるうえで、大切なことではないでしょうか。

■「レトリカルヒストリー」

最近、「レトリカルヒストリー」という言葉に出会いました。これは、**過去の歴史を現在や未来の目的に結びつけて語ること**です。**過去に起きた出来事そのものは変わりません。しかし、その出来事を誰が、どのような思いで語るのかによって、受け取る意味は変わってきます。**

企業にも歴史があります。創業者は、なぜその事業を始めたのか。何を実現したかったのか。どのような困難に遭遇し、何を守り、何を諦め、どのような決断をしてきたのか。そこには、成功の歴史だけでなく、失敗や葛藤の歴史もあります。その歴史を語ることで、企業の大切にしてきた価値観が見えてきます。そして、**その価値観が積み重なって、組織文化が形づくられていく**のだと思います。

そして、企業にはミッションやビジョンがあります。しかし、立派な言葉を掲げても、それだけでは社員の心には届きません。言葉として理解し、共感することはできても、肚に落ちないことがあります。なぜ、**この理念が生まれたのか。なぜ、この言葉を大切にしているのか。その背景にある歴史や経営者の思いを知って、初めて言葉に命が宿るのではないでしょうか。**つまり、過去を語ることによって、現在の理念に意味が生まれ、その理念が未来を指し示すようになるのだと思います。私は、経営理念とは、突き詰めれば、**企業が歩んできた歴史と、そこから育まれた組織文化の表現ではないか**と思っています。

そして、これは企業だけの話ではありません。人間もまた、自分はどこから来て、どこへ行こうとしているのかを考えながら生きています。特に若い頃は、将来への不安もあるでしょう。社会全体を見渡しても、かつてのように、経済が成長すれば誰もが豊かになり、幸せになれるという単純な物語は描きにくくなっています。そのような時代だからこそ、**企業が一つの物語を提供することには、大きな意味がある**ように思いま

す。自分が働いている会社が、何を大切にし、どのような社会をつくろうとしているのか。そして、自分自身の人生が、その物語とどこかで重なっている。そんな会社で働くことができれば、仕事は単に生活の糧を得るためだけのものではなくなるのではないでしょうか？

もちろん、すべての人が同じ価値観を持つ必要はありません。企業の理念と自分の生き方が合わなくなることもあります。でも、そのときに、気兼ねなく、相談できる相手がいると、とても心強いのではないか？と思うのです。つまり、理念が明確であるからこそ、共感して集まる人がいて、その人たちが一緒に考え、悩み、挑戦し、ともに成長していくことができるのです。

■未来への思いを人から人へと伝えていく

さて、AIはこれからますます進化していきます。文章を書き、分析を行い、計画を立て、やがて人間の多くの知的作業を代替するようになるのでしょう。**そのような時代に、人間に残される大切な役割とは何でしょうか。**

私は、自分たちが歩んできた歴史を語り、そこに意味を見いだし、**未来への思いを人から人へと伝えていくことではないかと思う**のです。

AIも、歴史を整理し、美しい物語をつくることはできるでしょう。しかし、その歴史を生き、苦しみ、喜び、そこから何を学んだのかを、自らの人生として語ることは、人間ならではの営みです。経営者が自分の言葉で語ること。先輩が後輩に、自分の経験を語ること。そして、一人ひとりが、自分自身の人生を語ること。そこから共感が生まれ、信頼が生まれ、新しい未来を一緒につくろうという思いが生まれるのではないでしょうか。

経済的な豊かさは、もちろん大切です。しかし、それは人生の目的そのものではないはずです。

何のために働くのか。誰のために生きるのか。そして、自分が生きたことで、周囲の人たちにどのようなよい影響を与えているのか？**企業も人間も、経済的な目的を超えて、人間的な目的を求める時代になってきたように感じています。**

皆さんは、未来にどのような思いを残しますか？

■ここからセミナーのご案内です。2種類あります。

『2027年新春セミナー　AIセミナー時流予見』

https://uesaka-seminar.biz/event/ai_seminar2027/

本セミナーでは、現在のAIトレンドを紐解き、中小企業がAIを活用するために、どのような準備をしていく必要があるのか？について、分かりやすく、解説をさせて頂く内容となっております。

講師は、弊社笹岡が登壇させて頂きます。

『上坂朋宏の時流予見　冬の陣2027』

https://uesaka-seminar.biz/event/jiryu2027fuyu/

今年も恒例の冬の陣セミナーの開催が決定しました。2016年のスタート以来、毎年、沢山の経営者の皆様にご参加頂いております。

激しく激動するここ最近の”時流”をとらえて、経営者の皆さま、幹部の皆さまに、熱いメッセージをお届けさせて頂きますので、こちらも是非、楽しみにして頂けたらと思います。

講師は、私　上坂朋宏が務めます。